

## 特別展示 フィリップ・キングとアンソニー・カロ

2018年11月17日(土)～2019年2月3日(日)

### コレクション展にプラスの楽しみ。イギリスゆかりの2人の彫刻家作品。

当館にて現在開催中のコレクション展 2018- III の特集「顔のような」は、顔というモチーフに着目し様々な作品を紹介しています。この特集と合わせてご覧いただきたいのが、野外彫刻として常設展示しているフィリップ・キング《ヘッド》です。見る角度によっては「顔のよう」にも見える本作の表現について考察するべく、この特別展示では、フィリップ・キングと彼に多大な影響を与えたアンソニー・カロの2作家を当館コレクションよりご紹介します。

フィリップ・キング(1934年～)はチュニジアに生まれ、イギリスを中心に現在も活動を続ける彫刻家です。1960年代初頭に、プラスチックやファイバーグラスなどの新素材を用いた鮮やかな色彩の彫刻がイギリス美術の新動向として取り上げられ、注目を集めました。

そして、セント・マーチン美術学校で若き日のキングに彫刻を教え、キングにとっても後進の多くのイギリスの彫刻家たちにとっても良き指導者であったのが、アンソニー・カロ(1924～2013年)です。カロは、キングに先んじて彩色した屑鉄を組み合わせた抽象彫刻を発表し、イギリスの彫刻における一時代を築きました。

本展示では、当館の委託によって制作されたキングの《ヒロシマのための記念碑》を、カロの《ウォーター・ストリート・スターター》と共に紹介し、1980年代のキングの表現について考えます。

#### ●展示作品解説

##### フィリップ・キング《ヒロシマのための記念碑》(1987-1988年)

1989年に当館で開催した開館記念特別展「広島・ヒロシマ・HIROSHIMA-国内外の制作委託作家78名によるヒロシマの心-」展のために制作された。本展図録でキングは自身を「アンチ・モニュメンタルな作品を制作する作家」に区分しながらも、「記念碑的で追悼に相応しいものを作りたかった」と述べている。

##### アンソニー・カロ《ウォーター・ストリート・スターター》(1980年)

半分に割れた器や薄い鉄板など、ブロンズで铸造された廃材を溶接することで成形されており、各部に渡された鉄棒とその先の鉄片によって全体が支えられている。後に屑鉄を積み上げて制作する大型の抽象彫刻に生かされることになる造形感覚が見て取れる。



フィリップ・キング  
《ヒロシマのための記念碑》1987-88年



アンソニー・カロ  
《ウォーター・ストリート・スターター》  
1980年



野外展示  
フィリップ・キング  
《ヘッド》1982-83年

【会期】 2018年11月17日(土)～2019年2月3日(日)

【開館時間】 10:00-17:00

【休館日】 月曜日(12月24日、1月14日を除く)、  
年末年始(12月27日(木)～1月1日(火・祝))、  
12月25日(火)、1月15日(火)

【観覧料】 無料